

平成 26 年度卒業制作実習個人報告書の刊行について

牧野俊郎*

近畿職業能力開発大学校では、2013(H25)年度末に卒業制作実習報告書を刊行した。それは同校の歴史に照らして画期的なことであった。しかし、その報告書は複数の学生のグループワークの成果を示すものであり、個々の学生の貢献が明示されるものではなかった。この点は卒業制作実習に携わる学生個人のモチベーションにも関係すると考えられた。については、2014(H26)年度には、個々の学生のグループワークへの貢献を具体的に示す「個人報告書」の提出するよう求めた。本稿では、その初めての「個人報告書」の刊行に関する記録を残す。

Keywords: 卒業制作実習報告書, グループ報告書と個人報告書, 学生個人の責任とモチベーション

1. 個人報告書刊行の背景

近畿職業能力開発大学校では、2013(H25)年度末に卒業制作実習報告書(「平成 25 年度 総合制作実習・開発課題実習報告書」)を刊行した[1]。その報告書は外注して 1,500 部を印刷し、卒業式の日卒業生に贈るとともに、大学校に永く保管することにした。また、関連の高校・企業・大学校・国会図書館を含む図書館等に送付した。

それまでには、卒業制作実習の報告書は学科の単位で開かれた卒業制作実習の発表会のための予稿集(proceedings)として手作りで作成されたが、その報告書は学科の外にさえ出ることがなかった。新たに刊行した報告書は、大学校の教育の成果を大学校外に広く公表したのみならず、学生や教員の卒業制作実習遂行のためのモチベーションを高めるのに有効であった。これは、大学校の歴史に照らして画期的なことであった[2]。そのような報告書は、2014(H26)年度末にも刊行し公表した[3]。今後の年度にもそれが慣行として続くことを期待している。

ところで、2013(H25)年度の報告書の刊行の後に、懸念されたことがあった。それは、卒業制作実習が複数の学生によるグループワーク(共同作業)によるものであることであった。卒業制作実習がグループワークとしてなされることは、教育上望ましいよいことである。しかし、その方式では、グループを中心的にリードする学生が育つ一方で、主体性なく“お手伝いさん”に徹して最低限をめざす学生も現れうると案じられた。学生の一人ひとりがグループの一員としての自覚と責任をもってその実習に当たれるようにするためには、なにか

のシステム/仕掛けが必要であると考えられた。

2. 個人報告書刊行の提案

については、2014(H26)年度には、前年度に発行した卒業制作報告書(ここでは、区別のためにこれを「グループ報告書」と呼ぶ。)に加えて、「個人報告書」を刊行することにした。学生にはその 2 種の報告書の提出が義務づけられていることを、実習のなるべく早い時期に知らせることにした。

グループワークへの個人としての貢献を、個人報告書として自ら書いて提出しなければならないことが予めわかっていると、個々の学生が日々の卒業制作実習に臨む姿勢にも具体的な変化が現れるかもしれない。“お手伝いさん”はなくならないまでも減ってくれるであろうと期待した。

そのような個人報告書刊行の提案は次のとおりのものであった：

- (1) 総合制作実習あるいは開発課題実習を履修するすべての学生は、個人として「総合制作実習・開発課題実習個人報告書」を大学校に提出するものとする。
- (2) 個人報告書では、グループ報告書とは別に、個人がグループ内で責任をもって主体的になした作業について、淡々と報告する[4]ものとする。
- (3) その原稿は、原則として 1 ページのものとする。ただし、個人報告書刊行の趣旨が満たされれば、各学科の事情に応じて 2 ページのものでもよい[5]。個人報告書用のテンプレートを各学科あてに送付する。
- (4) グループ報告書の提出期限は 2015 年 2 月 18

* 近畿職業能力開発大学校 校長

日[6], 個人報告書の提出期限は同年 3 月 10 日[7]とする。

- (5) 個人報告書は, 上記の刊行の趣旨に照らして, グループ報告書の場合とは異なり, 積極的に大学校の外に公表することはしない。大学校において 10 余部を印刷・製本し, 大学校に保管し, また, 専門課程・応用課程の計 8 学科に配布する。

3. 個人報告書の編集作業

すべての卒業予定者の個人報告書の原稿が, 上項(4)の提出期限の 3 月 10 日までに提出された。大学校はすぐにこれを編集し上項(5)の印刷・製本の過程に進むはずであった。しかし, たまたまのことではあるが, 大学校がその年度 2014(H26)年度末に創立 25 周年を迎えることになっており, その記念誌[8]の原稿作成に校長以下のスタッフは時間を割いていた。そのため, その記念誌の原稿が完成する 6 月末まで, 個人報告書の原稿は学務課のコンピューター内で眠っていた。

7 月になって, 校長以下のスタッフは, 提出された学生の原稿を順に並べて印刷するというそれだけの作業に結構な時間を費やした。個々に提出された原稿を繋ぐと, 図表が散乱して繋がらない, ページ・フッターの並びが乱れる, ページ番号が

うまく付けられないなどの初歩的な, グループ報告書の場合には印刷所任せにしていたあたりでのトラブルが多発した。ともあれ, 印刷してそれをマック針 No.3-10mm のホッチキスで 5 ケ所どめし, 冊子を作製した。でき上がった冊子は, 専門課程の「平成 26 年度総合制作実習報告書」が 111 ページで厚さが 6mm, 応用課程の「平成 26 年度開発課題実習報告書」が 123 ページで厚さが 7mm の, いずれも背表紙つきのものであった(写真 1)。これらの冊子を大学校の 8 学科に配布することができたのは 8 月のお盆の頃であった。

4. 完成した個人報告書

この筆者は, しっかり綴じられていない書類は読む気がしないという性格のひとであったので, 綴じられた個人報告書の冊子ができて初めて, 折り目を付けてその冊子を斜め読みした。

斜め読みして, まず気づいてそして安心したのは, 当初心配していた最低限の報告書も書けない学生はいなかったことである。定量的なデータをもって立証できないが, “お手伝いさん”ではない自立した学生を育てるという個人報告書刊行の目的はほぼ達成できたかに見えた。

いっぽう, 改善すべき点は数多く見出された。報告書の書式を説明しそれに上書きするテンプレ



写真 1 左から, 「平成 26 年度 総合制作実習・開発課題実習報告書」(グループ報告書), 「平成 26 年度 総合制作実習個人報告書」, 「平成 26 年度 開発課題実習個人報告書」。

ートを配布していたが、それを一読もせず書いたと思われる原稿が少なからず見られた。とくに、報告書の標題については、1行めに主題としてグループ報告書の標題を、2行めに副題として個人報告書の標題を記すように指定していたが、個人報告書の標題がないものや「個人報告書」という訳のわからない標題がついたものが数多くあった。そのため、報告書の“もくじ”のページを見るだけではグループ課題の担当者の全体像が見えないものが数多くあることになってしまった。章節名(first & second heads)の記載法などについては、テンプレートにある説明を読んでいないのみならず見ることすらなく書いたと思われる原稿がさらに数多くあった。今後 組織の規律のなかで生きて行く卒業生には、形式的なあたりにも注意を払うようにすべきである。これも「5S」のなかの「整頓」に当たるものであろう。

報告書の内容についても不満が残った。およそ製作物についての報告書は、(1)このような機能を実現するために、(2)このような仕様のものを開発することを企画し、(3)最適と推定される手法を選んで製作したところ、(4)結果的にこのような機能をもつものができた/できなかったことが(定量的に)検証された、という筋道で書かれるはずのものであるが、いくつかの報告書において、もっとも重要なはずの(4)の部分が至って希薄であった。このことについてはグループ報告書についてもそうであった。課題が難しすぎたか時間が足りなかったためであろうが、企業や大学の報告書においてはあるまじきことである。

さらに、上項(4)の次にある(5)結言 相当の締め部分に個人的な感想文を書く学生が多くいたのには驚いた。自分はこの卒業制作を通じて成長した、その経験を基礎として自分は世の中で役に立つ人になりたい、その類のものである。この報告書は、小学校や中学校の「思い出の卒業文集」ではない。報告書(report)は、「淡々と」確認された事実を報告する公的な文書である[4]。そんなことは、すでに繰り返し教えられていたはずである。

3月に卒業できるところにまで至って、最後の報告書を完成させる段になって ほんとしたのであろう、よくやった学生ほど ほんとするものである。しかし、報告書のその部分は次年度の卒業生が見て学びとってほしい部分ではない。

5. 結言

この大学は創立以来 25 年、すぐれた教職員をもって有為な人材を世に送り出してきた。ただ、この大学はそのことを具体的な記録の形で残すことには得意でなかったようである。本稿や文献[1]~[3], [8]はその点を補おうとしたものである。

文献と注釈

- [1] 近畿職業能力開発大学校編: 平成 25 年度総合制作実習・開発課題実習報告書, 近畿職業能力開発大学校, 96 pages, Mar.2014.
- [2] 牧野俊郎: 平成 25 年度卒業研究報告書の刊行と過去の卒業研究報告書の収集, *近畿能開大ジャーナル*, no.22, pp.17-20, Nov.2014.
- [3] 近畿職業能力開発大学校編: 平成 26 年度総合制作実習・開発課題実習報告書, 近畿職業能力開発大学校, 91 pages, Mar.2015.
- [4] 報告書は、事実関係をできるだけ正確かつ簡潔に筋道立てて述べるものである。それは決して感想や反省や自己評価を述べるところではない。
- [5] 建築施工システム技術科については、学科内で「開発課題実習」と通称されている「総合施工・施工管理課題実習」ではなく、1 課題を多くの場合 1 人で担当する「応用課題実習」の報告書を開発課題実習の個人報告書とすることにした。
- [6] 1ヶ月後の卒業式に間に合うように、外注印刷するのに要する時間を見込んだ日である。
- [7] 卒業判定会議の3日前に当たる日である。
- [8] 近畿職業能力開発大学校創立 25 周年記念誌, 近畿職業能力開発大学校, 154 pages, Jul. 2015.